

令和3年度 学校評価書

学校名（東温市立北吉井小学校）

令和4年2月10日

- 1 学校の教育目標 『元気で 一生懸命な やさしい北吉井っ子の育成 （生きる力の育成）』
 2 経営の基本方針 「よさやちがいを生かす教育」「家庭・地域との連携・協働」←『子どもの成長・安全・安心を中核に』（1）元気な子を育てる(自律)（2）一生懸命な子を育てる(勤勉)（3）やさしい子を育てる(協力)

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			○考察及び●改善方策	学校関係者評価委員より
			教職員	保護者	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	小さな変化やトラブルを見逃さず、受容的な態度で児童に対応し、組織的に未然防止及び課題の早期発見・早期解決に努めている。	3.8	3.7	3.0	○ 毎月のアンケートや教育相談等で、組織的な対応に努めた。特に、教職員や児童の評価数値が高く、教職員は取組に成果を感じ、児童も安心して生活できている。また、相談体制について、保護者から教職員が丁寧に対応しているといった意見を多数受けている。今後も、児童の成長のために保護者と共に考えていきたい。 ● 学校便りやHPで取組の理解啓発を図っているが、保護者に伝わりにくい部分の改善を考えていきたい。会議内容の視覚化によりケース会議の効率化と効果の向上は図られた。しかし、回数増加による教職員の負担は大きい。	生徒指導 どの項目においても児童が高評価をしており、小学校において安心、安定した生活ができているのだと思う。そこが大切であり、教職員の努力と自信が感じられる。教職員の負担が気に掛かる。保護者への情報提供も今後とも努力を続けてほしい。
	基本的な生活習慣の定着	心を込めた挨拶や返事の定着を図っている。	3.4	3.4	3.1		
	相談体制の充実	一人一人の児童の変化を見逃さず、児童の情報を共有し、児童の声を丁寧に聞き取る教育相談や保護者参加のケース会議等をチームで対応している。	3.6	3.5	3.3		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	一人一人に出番がある学習や活動の場を工夫し、みんなの学習クラブのプリント等を活用するなどして、きめ細かな指導を行っている。	3.2	3.5	3.1	○ 分かる授業づくりに努め、発達段階に応じて、ノートの取り方や家庭学習の進め方など「学び方を学ぶ」取組を行った。学習の仕方が分かることで、内容の理解度も向上し、意欲を持って取り組む児童が増えた。 ● 教職員・児童に比べ保護者の評価数値が低い。家庭と連携しながら、プリント学習やICTを活用して基礎・基本の定着や思考力・判断力の育成を更に進めていきたい。	確かな学力を育てる教育 学力向上は学校の重責である。より一層の向上が自覚できるように研鑽を続けてほしい。 豊かな心、健やかな体を育てる教育
	家庭学習の充実	宿題や自主学習の内容や取り組み方について全校の共通理解の基、保護者との協力等により、家庭学習の習慣が定着するよう努めている。	3.3	3.4	3.0		
	学び合い・振り返りのある学習	課題を持ち、自分の考えやその理由や根拠を明確にし、学び合い・振り返りのある学習を行うように努めている。	3.2	3.5	3.0		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳の時間を中心に、全教育活動を通して思いやり・感謝の心を育てる道徳教育の充実に努めている。	3.3	3.7	3.3	○ 心に響く道徳学習を行うために教職員は道徳の研修に励んだ。また、ICTを活用したフレンド集会を計画し、児童参加型の集会活動の充実に努めた。 ○ 「体験活動の充実」について、保護者の評価数値が昨年度よりも0.4ポイント向上した。コロナ禍の中、感染対策を講じながらも、目的を明確にして児童の思いが表現できる運動会や音楽会を行ったり、各学年で工夫して体験活動を講じたりしたことが要因と考える。 ● 保護者アンケートにおいて、肯定的な回答率は9割を超えているものの、「そう思う（評価4）」と答えた回答は高くない。児童の他者を思いやる気持ちや感謝の気持ちが保護者に伝わるような教育活動を工夫していきたい。	豊かな心、健やかな体を育てる教育 コロナ禍の中、成果が出ていると思う。仲間づくり・集団づくりが北吉井小学校のよさである。 特別支援教育 よさやちがいを生かし合う教育がなされている。特別支援教育にこそICTの活用は必要であると思われる。 安全・安心な教育環境の整備
	仲間づくり・集団づくり	自分の大切さとともに他の人の大切さを認めながら、仲間意識に支えられ、互いに協力のできる集団の育成に努めている。	3.7	3.7	3.4		
	健康づくり・体力づくり	家庭と連携し、自分や周りに対する心身の健康に関する意識の向上に努めている。	3.0	3.4	3.3		
	体験活動の充実	制限の中でも、本物に触れる体験活動や自分たちで作り上げる活動を充実させ、自律心の育成を図っている。	3.0	3.6	3.3		
特別支援教育	特別支援教育の充実	一人一人のニーズに応じた支援を行うとともに、よさやちがいを生かし合う笑顔あふれる学校づくりに努めている。	3.3	3.2	3.1	○ 保護者参加の関係者・関係機関によるケース会議を開いたり、学習や生活の中でよさを発揮できる活動を工夫したりして、児童の居場所づくりに努めている。	地域一帯となって取り組んでいる様子が見られる。コロナ禍の中、やむを得ない状況であるが安全・安心かつ楽しく感じられる学校生活を児童に提供している。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	家庭や地域と連携して、登下校時の安全確保に努め、児童の安全への意識を高めるよう配慮している。	3.4	3.7	3.5	○ 地域の方に見守り協力をいただき、特に登下校時の安全が確保されている。「自分の命は自分で守る」指導を繰り返し行っている。児童の意識は高まってきた。 ○ 防災教育を充実させるために、児童引き渡しカードの内容を変更した。災害発生時の避難について、家庭で話し合う機会を設けた。 ● 給食時では、黙食や手洗い等の徹底など、コロナ禍において優先することが多く、楽しく給食を食べることができにくい状況である。	家庭・地域との連携 情報提供はよくできている。今後とも続けてほしい。 特色ある学校づくり 異学年交流を通して、高学年が低学年の面倒をみるよさがある。今後も教師が自校の特色を「これだ」と自信を持って取り組んでほしい。 施設・設備の充実 ICTの項目においてタブレットの持ち帰りなど課題もあるが、効果的な学習につながる取組が大事なのではないか。 その他 教師、保護者、児童の評価が昨年度に比べ向上しており、学校全体で真摯に取り組んできた成果である。教職員の努力が児童、保護者にも伝わっていると思われる。
	防災教育の充実	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	3.3	3.8	3.2		
	食の安全と食育の充実	給食の安全を確保すると共に、食育を推進している。	3.1	3.5	3.3		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとCSの推進	学校・家庭・地域が連携・協働する開かれた学校づくりがなされている。	3.0	3.3	3.2	○ 学校運営協議会で、「学校が背負いすぎないように何でも言ってください」と心強い言葉をいただき、学校と地域が連携して取り組む体制が整ってきている。情報の共有化を通して学校・家庭・地域が連携・協働する体制を構築し、豊富な人材の活用を進めたい。 ● 児童の学校生活の様子がHPや学校・学年・学級便り等でよく分かったという保護者意見があった反面、学校の様子が分かりにくいといった意見もあった。保護者来校が困難な状況が続くと思われる。今後も充実したHPや学校便り、各種通信等を発信したい。	
	情報の共有化	児童の様子について積極的に学校の様子を伝えたり、学校便りやホームページ等で学校の情報を積極的に発信したりして情報の共有化に努めている。	3.5	3.4	3.4		
特色ある学校づくり	交流による助け合い	縦割り班活動等を通して、異学年交流を深めながら奉仕や助け合いの気持ちを育てている。	3.1	3.5	3.2	○ 制限はあったが、ICTを活用した異学年交流やなかよし班清掃を行うことができた。関わりが深まる中で、互いが支え合うことの大切さを児童自身が感じている。	
施設・設備の充実	ICTの有効活用	一人一台タブレット等を活用し、授業に生かしている。	3.6	3.9	3.3	○ GIGAスクール構想の実現に向けて、ICT活用の推進を研究の柱とし、タブレット端末を学習の中で積極的に活用した。操作にも慣れ、効果的な学習に役立った。 ● 今年度、教室の増築等多くの工事が行われた。新しくできた施設を効果的に使いながら、児童のより良い教育活動につながるよう努めていきたい。	
	施設・設備の安全管理	安全点検等による潜在危険箇所の早期発見と除去に努め、整った施設・設備の整備に努めている。	3.2	3.7	3.3		